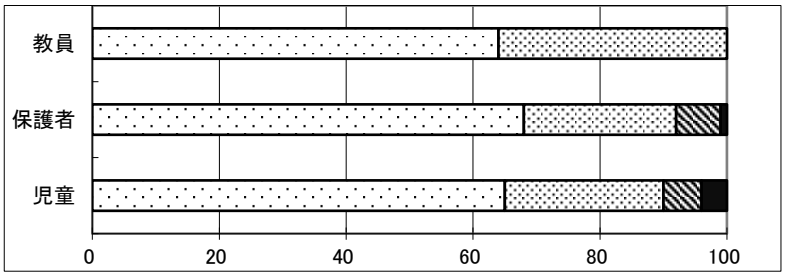
千葉市立有吉小学校

令和5年度 学校評価アンケート集計について

11月に実施しました学校評価アンケートの集計結果についてお知らせします。
寄せられたご意見は今後の学校で指導する際の参考にさせていただきます。
グラフの横軸は割合を表し、左にいくほど肯定的な意見になっています。

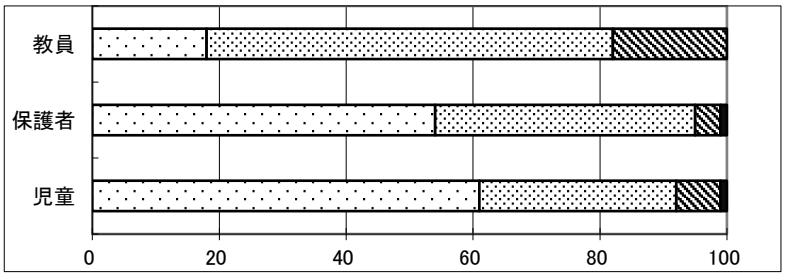
そう思う　少しそう思う　あまり思わない　そう思わない

① 学校や学級で楽しくすごしている。



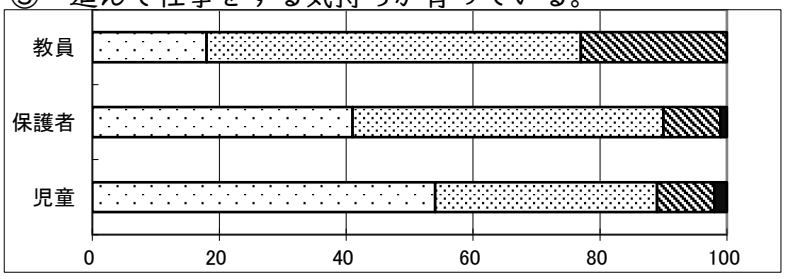
肯定的な回答が多いものの、1割の児童が否定的な回答をしています。100%を目指し、魅力的な活動と、教育相談機能を一層充実させ、全ての児童にとって、充実した学校生活になるよう追求していきます。

② 思いやりの心が育っている。



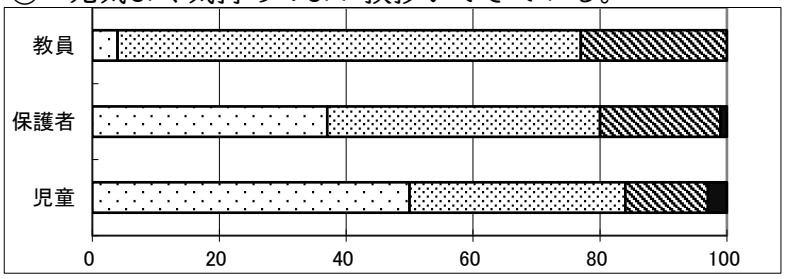
保護者・児童とも肯定的な回答がほとんどです。教員は、より高いレベルを目指して課題意識をもっています。これからも、人との関わりを重視して教育活動を計画・運営していきます。

③ 進んで仕事をする気持ちが育っている。



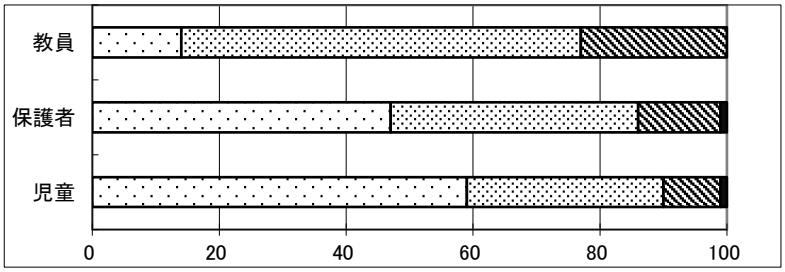
おおむね肯定的な回答となっていますが、児童・保護者とも1割の否定的な回答が見られます。教員は、より高いレベルを目指して課題意識をもっています。努力する姿を積極的に認め、自己肯定感を高めていきます。

④ 元気よく気持ちのよい挨拶ができている。



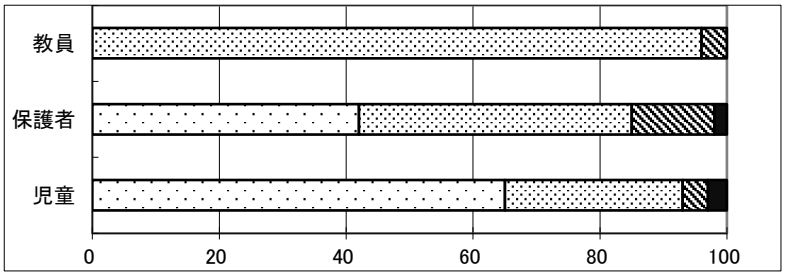
２割前後が否定的な回答になっています。挨拶は本校の目指す子ども像の一つ「心豊かで」を体現する重要な項目なので、地域との関わりを充実させる中で、更に高めたいと思います。

⑤　はっきりと返事ができている。



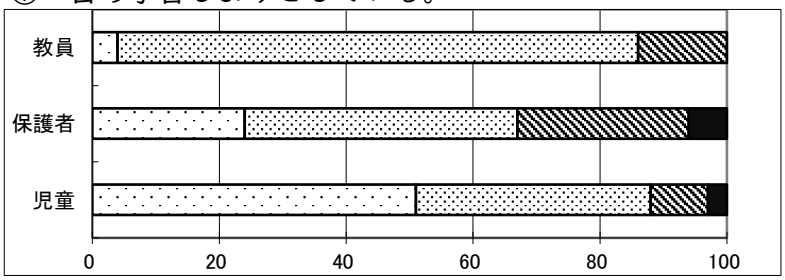
返事や言葉遣いは挨拶と同様に最重要な項目の１つと考えています。その都度、場面に合わせて、返事や言葉遣いを指導し、更に定着させていきます。

⑥　学習内容を理解している。



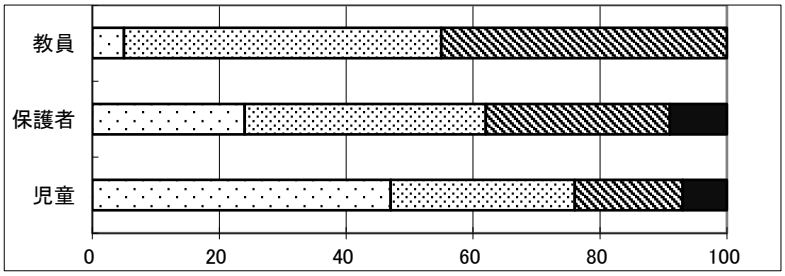
児童はおおむね肯定的な回答となっています。保護者や教員は、現状に満足せず、さらに改善しようという意識がうかがえます。面談などを通して、児童・保護者・教員で到達目標の共通理解を図っていきたいと考えます。

⑦　自ら学習しようとしている。



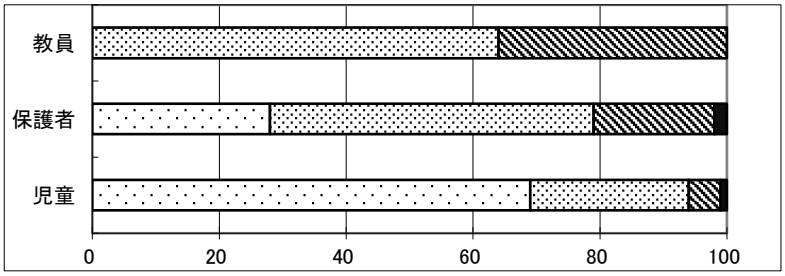
児童と保護者の意識のずれがあります。児童が興味や必要感をもって取り組むよう、教材や助言を工夫していきます。高学年では、学習への取組を自らのキャリア形成と結びつけて自己評価できるよう、計画的に進めていきます。

⑧　家庭学習の習慣が身に付いてきている。



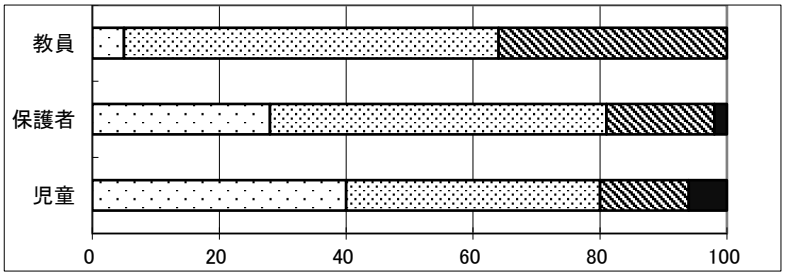
否定的な回答が目立ち、家庭ですべき課題を見つけたり、提示されたりすることが不十分であることを示しています。適切な課題の提示や、学習方法の例示を更に充実させていきます。

⑨　人の話を聞く力が身に付いてきている。



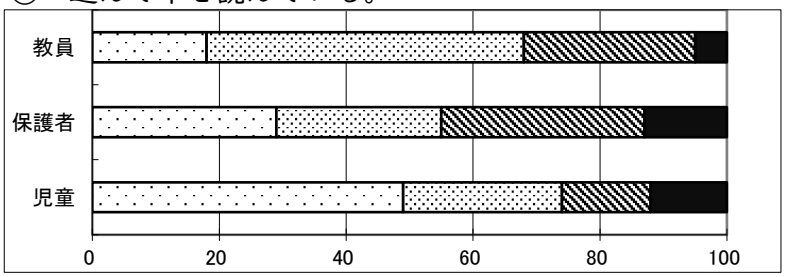
児童は、肯定的な回答がほとんどで、聞く意識は高いといえます。保護者や、特に教員の評価と大きなずれが見られるので、聞いたことを行動や態度に示すなど、一連のコミュニケーションスキルとして一体的に高める必要があります。

⑩　自分の思いや考えを伝える力が身に付いてきている。



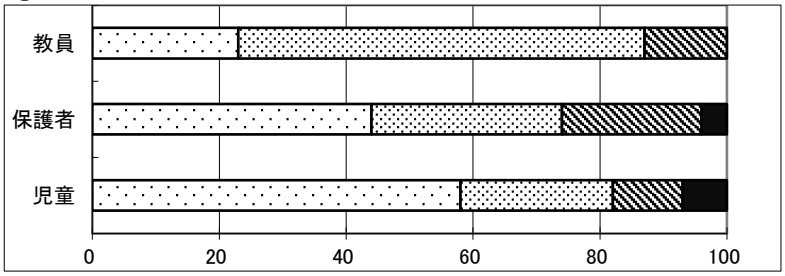
児童の２割が否定的な回答となっており、教員は更に課題を感じています。話し方の指導と共に、考えや思いを受け入れてもらえるような一人一人にとって、より安全・安心な環境づくりに取り組みます。

⑪　進んで本を読んでいる。



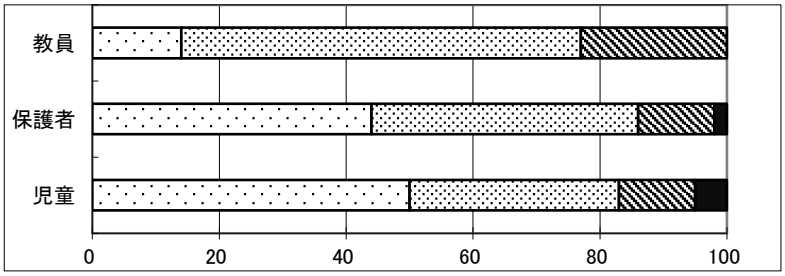
書籍以外から情報を得る方法が増えていることもあり、否定的な回答が目立ちます。活字に親しむ大切さはまだまだ見逃せないので、引き続き図書環境を整備し、本に親しむよう指導を進めていきます。

⑫　進んで運動や外遊びをしている。



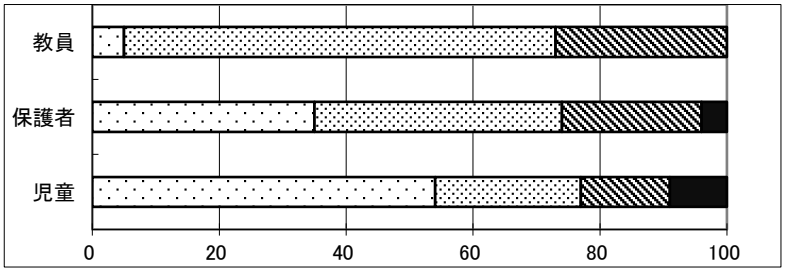
コロナ禍が収束し、教員では肯定的な意見が戻りつつあります。一方、依然として運動する児童と、しない児童の二極化が見られるため、学校では、休み時間に楽しく運動できる取組を増やしていきます。

⑬　規則正しい生活をしている。



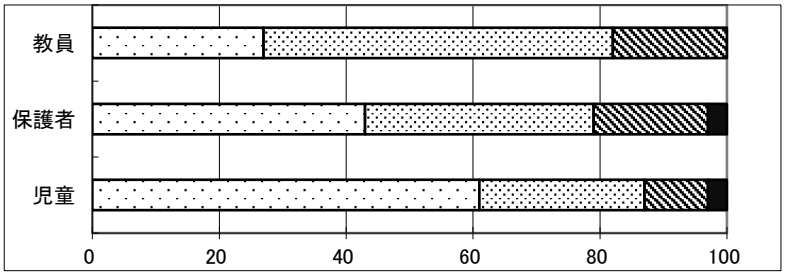
保護者より一部児童の方が課題意識をもっていることが読み取れます。生活全般を規則正しく安定させるために、学校と家庭が連携を深める必要がります。

⑭　ゲームやインターネットは家族で時間や使い方を決めている。



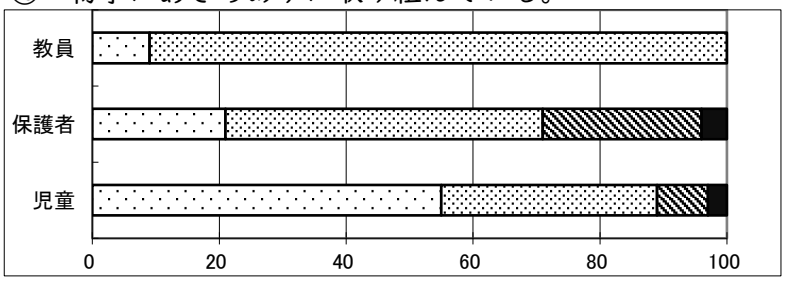
否定的な回答が２割を超え、児童の意識では、二極化が明確になってきています。一人一台端末の時代にはとても大切な項目となっているので、常に情報をアップデートしながら重点的に指導していきます。

⑮　食事は栄養を考え、好き嫌いせずに食べている。



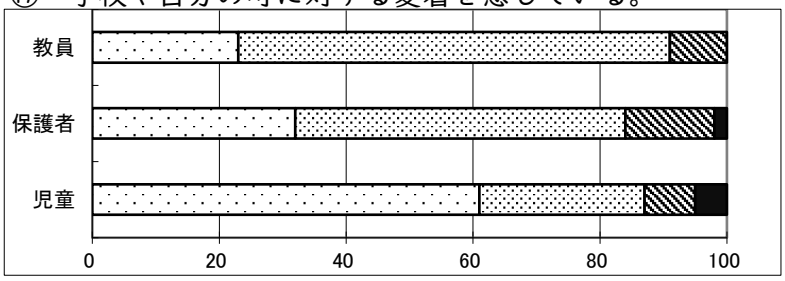
好き嫌いは、生理的なものであるため、100%を目指すのではなく、健康と食事の関係をしっかりと意識した食生活の理解を進めていきます。

⑯　物事にあきらめずに取り組んでいる。



児童と保護者、教員の意識のずれがみられます。それぞれが目標を共有し、児童が必要感をもって取り組んだり、達成感や充実感を十分に感じたりできる活動を増やしていきます。

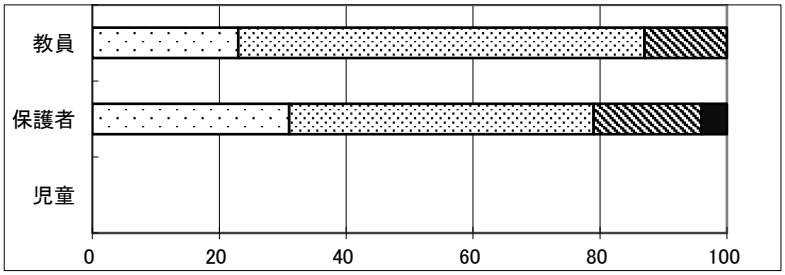
⑰　学校や自分の町に対する愛着を感じている。



愛着は強制されるものでないため、100%を目指すのではなく、互いに良さを認め、自己肯定感を高める一つの指針として意識していきたいと思います。

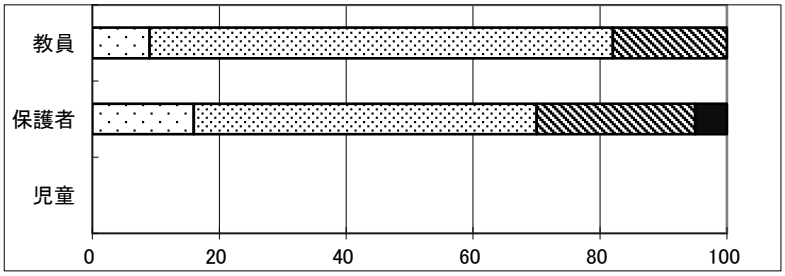
以降は、教員・保護者のみの設問となります。

⑱　学校や学級の様子が家庭に伝わっている。



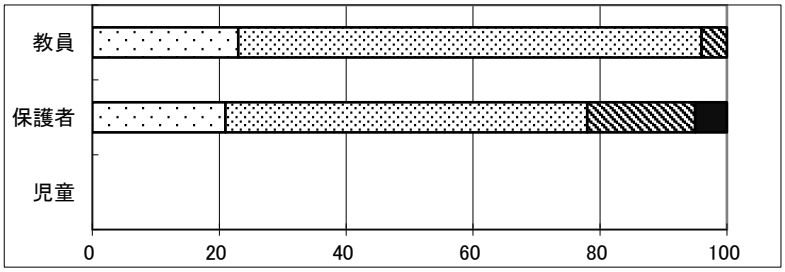
コロナ禍の時期より改善していますが、まだ保護者の方の２割が否定的な回答となっています。学習参観日以外に、機会を捉えて学習ボランティアを募り、来校していただく機会を増やしたいと考えています。

⑲　学校の教育目標や方針が伝わっている。



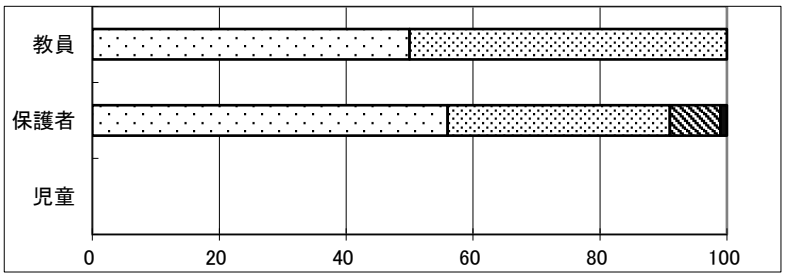
教員・保護者共に「そう思う」の割合が低く、否定的な回答も２～３割に達しています。活動のねらいや目指す子ども像を教員も児童・保護者もしっかり意識できるよう、活動の事前・事後指導を充実させていきます。

⑳　学校・保護者・地域の協力関係ができている。



保護者の２割が足りないと考えています。今年度より再開している交流活動を更に充実させ、情報交換を行う中で、協力関係を強化していきたいと思います。

㉑　けがや事故に対する連絡や処置が適切である。



おおむね肯定的な意見が多いですが、けがや事故の連絡や処置は確実に行わなければなりません。100%になるよう更に意識を高めていきます。